

常なる磐

つねなる いわ season II
令和3年7月2日(金)

◇ 安全教育の充実に向けて ～救急救命講習（教員研修）～



児童下校後の現職研修（教員研修）の様子。足裏をぴたりと床に着け、背筋を伸ばして講師の話聞く本校職員の受講態度。素晴らしい。

今回の受講者は、今年度に本校に着任した5名の教員。全員参加できないのには理由がある。

受講規定により、5名以下の制約のある講義なのだ。

となると、講義内容が気になるどころだろう。

岡崎市初の救急救命士の大山恭司さん（大柳町在住）を講師に招いた【救命講習】である。

講義時間はみっちり3時間。これも規定に従ったもの。

なぜなら、【資格認定講習】であるためだ。



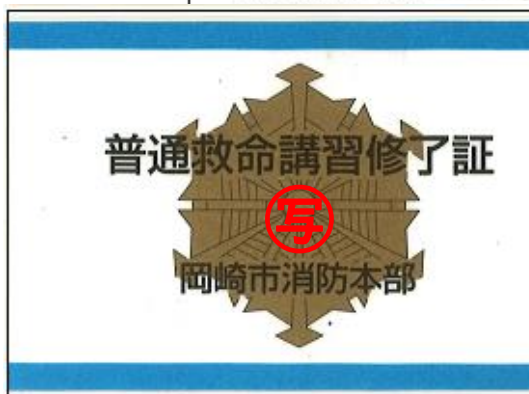
昨年度の同時期、自分も同講座を受講させていただいた。受講後に頂いたのが、右の修了証である。

岡崎市内の全ての市立小中学校には、AED（自動体外式除細動器）が2台設置されている。

（※本校は職員室と保健室）

設置だけでなく、教員がAEDを使用できるようにと、AEDの使用・取扱いの研修を行う学校が増えてきた。そうした中、本校は、数年前からAEDの取扱いを含めた【救急救命研修】を継続的に行っている。

実習は本格的で実戦に近く、5名以内の講習も領ける。





先にも紹介したが、講師の大山さんは、岡崎市消防署に勤務した元消防士であり、岡崎市で初めて救急救命士の資格を取得した方である。

現在も各地で救命講習の講師を務められている。現役バリバリである。

実習に入ると服装を着替えられた。

「命」と背中に記された T シャツの前面は、あばら骨と心臓のイラストがある。人体模型と併せて T シャツのイラストで心臓の位置を示しながらの実数が進む。そして、T シャツのイラストの「あばら骨 (胸骨)」と「心臓」は、医療機器で撮影した大山さん本人のものだそうだ。まさに身をもった実習講習である。

せっかくなので、救急救命措置について簡単に説明する。

・最も重要なのは【心肺蘇生】である。

・岡崎市の統計によれば、119 番通報から現場に救急車が到着するまで、平均で8～9分。この救急車到着までの応急措置が【分かれ道】。

・応急措置が AED かと言えば、そうではない。

AED が到着するまでの数分間(救急車が到着するまでの時間に置き換えてもよい)、心停止にある心臓を外部からの力で動かして体に(特に脳)血液を送り込む、いわゆる【心臓マッサージ】が応急措置。

・AED は、「心臓が止まる原因となる心臓の痙攣を電気ショックにより取り除く」装置。よって、AED が現場到着するまでの心停止状態の応急措置、つまり【心肺蘇生】＝【心臓マッサージ】が、最も重要。

これが重要なのである。⇒⇒⇒

ちなみに、5人の受講者に対して、練習用 AED は5台。一人1台だ。

AED 使用の練習よりも、心臓マッサージ実習をみっちり行うためなのである。大山さん、ありがとうございました。

